

地域歴史文化大学フォーラム

地域歴史文化継承における大学と研究機関の役割

広域災害への備えと人材育成

2016年11月12日(土)

会場 神戸大学文学部
C棟5F大会議室

参加無料・事前申込制(定員70名)

申込方法は裏面をご覧ください

申込締切 2016年11月7日(月)

奥村 弘 神戸大学
地域連携推進室長

地域歴史文化拠点としての大学の役割

——神戸大学人文学研究科地域連携センターの活動から考える——

佐藤大介 東北大学
災害科学国際研究所准教授

宮城での歴史資料保全活動、「その先」へ向けて

——東北大学での活動——

伊藤昭弘 佐賀大学
地域学歴史文化研究センター准教授

地域の研究拠点として

——佐賀大学地域学歴史文化研究センターの10年——

寺内 浩 愛媛大学
法文学部教授

愛媛大学と地域歴史資料の保存・活用

主催 神戸大学大学院人文学研究科/地域連携センター

共催 人間文化研究機構(国立歴史民俗博物館・国立民族学博物館)・東北大学災害科学国際研究所・ひょうご神戸プラットフォーム協議会

協力 科学研究費補助金基盤研究S「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立——東日本大震災を踏まえて」研究グループ

参加をご希望の方は以下の項目に記載の上、eメールにてお申し込みください。 申込締切 2016年11月7日(月)

- ・氏名
- ・所属・肩書(例:〇〇大学〇学部・教授)
- ・出張依頼状の要否(必要な場合は送り先等をご記入ください)
- ・情報交換会参加希望の有無

申込先eメールアドレス

kimura.schuji@silver.kobe-u.ac.jp

メールの題名は「大学フォーラム申込」としてください。

大学関係者の方は、差し支えなければ、お申込に合わせて、eメールにて下記アンケートも合わせてお答えください。ご参加されない方も、アンケートだけでもご回答いただければ幸いです。

アンケート結果は個人・機関が特定されない形で当日の討論の参考として利用させていただきます。

Q1 貴学では歴史文化に関して地域連携活動をされていますか？

- a. 大学として取り組んでいる
- b. 教員が個人的に取り組んでいる
- c. 取り組んでいない
- d. わからない

Q2 貴学では立地地域・近隣地域で大規模災害が発生した際、地域の歴史資料・文化財などをを守るための備えをされていますか？

- a. 平時から備えている
- b. 平時は活動していないが災害時には対応できる
- c. 備えていない/災害時の対応はしない
- d. わからない

タイムテーブル

- 13:00 ~ 13:05 開会挨拶 (内田一徳・神戸大学理事/副学長)
- 13:05 ~ 13:10 主催者挨拶 (増本浩子・神戸大学大学院人文学研究科長)
- 13:10 ~ 13:30 共催者挨拶 (平川南・人間文化研究機構理事)
- 13:30 ~ 14:00 報告① 奥村弘 (神戸大学地域連携推進室長)
- 14:00 ~ 14:30 報告② 佐藤大介 (東北大学災害科学国際研究所准教授)
- 14:40 ~ 15:10 報告③ 伊藤昭弘 (佐賀大学地域学歴史文化研究センター准教授)
- 15:10 ~ 15:40 報告④ 寺内浩 (愛媛大学法文学部教授)
- 16:00 ~ 17:00 討論
- 17:00 ~ 17:15 まとめと閉会挨拶 (久留島浩・国立歴史民俗博物館館長)

情報交換会 17:30 ~ 19:30 会費 4,000円

神戸大学生生活協同組合 LANS BOX 2階食堂

《お問い合わせ先》

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター 担当:木村修二
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 TEL/FAX 078-803-5566
e-mail kimura.schuji@silver.kobe-u.ac.jp
URL <http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~area-c/>

交通アクセス

阪神「御影」駅、JR「六甲道」駅、阪急「六甲」駅から、神戸市バス36系統鶴甲団地行、鶴甲2丁目止まり行き乗車、「神大文理農学部前」下車

阪神・淡路大震災以降、全国で相次いで地震などの大災害が発生するなか、各地で歴史文化資料の保全に取り組む「歴史資料ネットワーク」が結成され、その数は現在24団体にのぼるが、その多くは地方国立大学に事務局を置き、そこを拠点として活動している。

地域歴史文化資料の保全・継承にあたっては、災害発生後の救出活動だけではなく、平時からの取り組みがより重要であることが明らかになっている。地域歴史文化資料の所在確認を進めることに加えて、地域づくりなどへの活用を促すことで、地域の人々の関心を高めていくことが、地域歴史文化資料を保全・継承するために不可欠である。地域歴史文化資料は、それに意義を見出し、残していこうとする人々の営みがあって、地域の歴史文化遺産として継承されていくものであると考えるならば、一握りの専門家だけではなく、多様な価値観を持つ一般の人々がその担い手となることが望まれる。各地の大学は、そうした担い手を育成するための教育・研究拠点としての役割も果たしている。神戸大学が中心となるCOC+事業「地域創生に定める実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」でも、事業を推進する五つの領域の一つとして「歴史と文化」領域を設定し、地域歴史文化の担い手を育成する教育プログラムの開発をおこなっている。こうした災害からの地域歴史文化資料の保全や、その担い手育成のためには、大学間、さらに大学共同利用機関の連携による基盤の構築が必要となる。神戸大学では人間文化研究機構や東北大学とともに大学ネットワークの形成も進めている。

こうした動向をうけて本フォーラムでは、これまでの地域歴史文化をめぐる、各地の大学の取り組みの成果や到達点を改めて確認し、今後の課題解決や連携強化に向けて議論をしていきたいと考えている。

